

平成29年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

○ 平成29年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程の32校34科、定時制課程の1校1科、特色選抜（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）実施校は、全日制課程の14校17科であった。

推薦選抜、特色選抜合わせて6,646人（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）が出願し、3,407人が入学許可予定者となった。

○ 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.11倍であった。また、出願変更率は7.0%であった。

<推薦選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

1 出願状況

募集枠	2,363人		
出願者数	2,485人	出願倍率	1.05倍 (1.08倍)

( )は前年度であり、以下同様。

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数	2,485人		
入学許可予定者数	2,179人	合格率	87.7% (85.3%)

<特色選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

1 出願状況

募集枠	1,228人		
出願者数	4,161人	出願倍率	3.39倍 (3.32倍)

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数	4,160人		
入学許可予定者数	1,228人	合格率	29.5% (30.2%)

<スポーツ・文化芸術推薦選抜【推薦選抜・特色選抜の内数】>

1 出願状況

募集枠	93人		
出願者数	98人	出願倍率	1.05倍

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数	98人		
入学許可予定者数	77人	合格率	78.6%

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況

出願者数	7,992人 (7,948人)		
確定出願者数	7,933人 (7,907人)		
確定出願倍率	全日制 1.12倍 (1.12倍)	定時制	0.73倍 (0.85倍)
	全・定合わせて1.11倍 (1.11倍)		

2 出願変更状況

出願変更者数	560人 (536人)	このうち	59人は出願辞退者
出願変更率	7.0% (6.7%)		

(1) 学科別出願変更率では工業学科が10.6%と最も高かった。(前年度は農業学科の13.4%)

(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 290人 出願変更率 6.0% (6.2%)

3 受検状況

受検者数	7,914人 (7,879人)	受検倍率	1.11倍 (1.11倍)
全日制	7,726人	1.12倍 (1.12倍)	定時制 188人
			0.69倍 (0.81倍)

4 入学許可予定者

(1) 学力検査による入学許可予定者数 6,878人 (6,964人) 合格率86.9% (88.4%)

(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科 18校20科 (15校19科)

<二次選抜>

1 二次選抜募集の学校・科および募集定員

全日制 13校14科184人 定時制 5校6科91人 全・定合わせて 18校20科275人

2 出願状況 出願者数 158人 出願倍率 0.57倍 (0.89倍)

3 受検状況 受検者数 152人 受検倍率 0.55倍 (0.86倍)

4 入学許可予定者 入学許可予定者数 123人 合格率 80.9% (86.9%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

1 入学許可予定者総数 10,408人

2 実入学者数 10,402人

3 定員充足率 98.5% (99.6%)

平成29年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

# 平成29年度 滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

## 目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	1
(1)	推薦選抜、特色選抜の結果	1
(2)	スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	2
(3)	一般選抜の結果	2
(4)	入学者選抜の結果	3
2	学科別の受検者数、入学許可予定者数等について	4
3	一般選抜における出願変更者数について	5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	5
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	6
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	8
2	配点等	8
3	検査成績	8
	【各教科の分析】	
	国 語	9
	数 学	11
	社 会	13
	理 科	15
	英 語	17

# I 全日時の課程および定時制の課程

## 1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、平成29年度県立高等学校入学者選抜の結果についてまとめたものである。

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

### (1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日制課程の32校34科（普通科16、専門学科11、総合学科7）、定時制課程の1校1科（普通科1）であった。特色選抜実施校は、14校17科（普通科14、専門学科3）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月8日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・中等教育学校107校中96校（昨年度107校中97校）、特別支援学校中学部13校中0校（昨年度13校中1校）、県外の中学校は17校（昨年度22校）であった。全日制の出願者数は、普通科で913人（昨年度911人）、農業学科で240人（昨年度228人）、工業学科で339人（昨年度347人）、商業学科で332人（昨年度329人）、家庭学科で58人（昨年度71人）、体育学科で52人（昨年度60人）、美術学科で44人（昨年度37人）、総合学科で498人（昨年度486人）であった。定時制は普通科の9人（昨年度8人）となった。この結果、出願者数合計は、2,485人（昨年度2,477人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では1.05倍（昨年度1.09倍）、専門学科で1.12倍（昨年度1.16倍）、総合学科では0.93倍（昨年度0.94倍）、定時制の普通科は0.90倍（昨年度1.33倍）となり、実施学科全体では1.05倍（昨年度1.08倍）であった。この結果、2,179人が入学許可予定者となり、合格率は87.7%（昨年度85.3%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・中等教育学校107校中105校（昨年度107校中103校）、県外の中学校は20校（昨年度16校）であった。出願者数は、普通科で4,051人（昨年度3,910人）、理数学科で81人（昨年度73人）、音楽学科で29人（昨年度36人）であった。この結果、出願者数合計は4,161人（昨年度4,019人）となり、出願倍率は、普通科では3.47倍（昨年度3.39倍）、専門学科では1.83倍（昨年度1.82倍）となり、実施学科全体では3.39倍（昨年度3.32倍）であった。この結果、1,228人が入学許可予定者となり、合格率は29.5%（昨年度30.2%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,407人が入学許可予定者となり、合格率は51.3%（昨年度51.2%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数C	合格率 C/B' (%)	
			%	人数A'						
推 薦 選 抜	普通科	3,040	25~30	882	922	922	1.05	836	90.7	
	専 門 学 科	農業	400	50	200	240	240	1.20	191	79.6
		工業	760	50	380	339	339	0.89	312	92.0
		商業	520	50	260	332	332	1.28	253	76.2
		家庭	80	35	28	58	58	2.07	28	48.3
		体育	40	100	40	52	52	1.30	40	76.9
		美術	40	100	40	44	44	1.10	40	90.9
	小計	1,840		948	1,065	1,065	1.12	864	81.1	
総合学科	1,360	30~40※	533	498	498	0.93	479	96.2		
合計	6,240		2,363	2,485	2,485	1.05	2,179	87.7		
特 色 選 抜	普通科	3,960	25~30	1,168	4,051	4,050	3.47	1,168	28.8	
	専 門 学 科	理数	80	50	40	81	81	2.03	40	49.4
		音楽	40	50	20	29	29	1.45	20	69.0
	小計	120		60	110	110	1.83	60	54.5	
合計	4,080		1,228	4,161	4,160	3.39	1,228	29.5		
総合計	10,320		3,591	6,646	6,645	1.85	3,407	51.3		

※信楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）

## (2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

推薦選抜実施校の中でスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の11校（普通科4校、専門学科4校、総合学科4校 のべ12校）であった。特色選抜実施校の中でスポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の2校（普通科2校）であった。

受検者数98人に対し、入学許可予定者数は77人となり、受検者数に対する合格率は、78.6%となった。

## (3) 一般選抜の結果

3月8日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,153人に対し、確定出願者数は7,933人であり、確定出願倍率は1.11倍であった。この結果、6,878人が入学許可予定者となり、合格率は86.9%であった。

3月22日に実施した二次選抜は、二次選抜定員275人に対し、受検者数は152人であった。この結果、123人が入学許可予定者となり、合格率は80.9%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成29年度	平成28年度
学力検査	学力検査定員 A		7,153	7,115
	出願者数		7,992	7,948
	確定出願者数 (倍率)		7,933 (1.11)	7,907 (1.11)
	受検者数 B (倍率)		7,914 (1.11)	7,879 (1.11)
	不合格者数		1,036	915
	入学許可予定者数 C		6,878	6,964
	合格率 C/B (%)		86.9	88.4
二次選抜	二次選抜定員 A-C		275	151
	出願者数		158	134
	受検者数 D (倍率)		152 (0.55)	130 (0.86)
	不合格者数		29	17
	入学許可予定者数 E		123	113
	合格率 E/D (%)		80.9	86.9
入学許可予定者数合計 C+E			7,001	7,077

(4) 入学者選抜の結果

3月15日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,285人であり、その内、推薦選抜による者は2,112人、特色選抜による者は1,218人、スポーツ・文化芸術推薦選抜による者は77人、一般選抜による入学許可予定者数は6,878人であった。また、3月24日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は123人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,408人となった。そのうち、全日制では募集定員10,280人に対して入学許可予定者数10,201人となった。

4月10日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,402人で、募集定員の98.5%（昨年度99.6%）となった。

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	平成29年度			平成28年度
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				14,688	14,478
募集定員 A		10,280	280	10,560	10,440
推薦選抜入学許可予定者数		2,103	9	2,112	2,113
特色選抜入学許可予定者数		1,218	-	1,218	1,212
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		77	-	77	-
一般選抜入学許可予定者数		6,698	180	6,878	6,964
二次選抜入学許可予定者数		105	18	123	113
総計	入学許可予定者総数	10,201	207	10,408	10,402
	実入学者数 B			10,402	10,398
	定員充足率 B/A (%)			98.5	99.6

※県内中学校卒業生数は平成29年3月中学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

## 2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、工業学科、商業学科、音楽学科、総合学科の5学科（昨年度4学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	総合	
募集定員 A		10,560	7,120	400	840	520	80	80	40	40	40	1,400	
推薦選抜	募集枠（人数）	2,363	882	200	380	260	28	---	40	---	40	533	
	受検者数 B	2,485	922	240	339	332	58	---	52	---	44	498	
	入学許可予定者数 C	2,179	836	191	312	253	28	---	40	---	40	479	
	合格率 C/B(%)	87.7	90.7	79.6	92.0	76.2	48.3	---	76.9	---	90.9	96.2	
特色選抜	募集枠（人数）	1,228	1,168	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	受検者数 D	4,160	4,050	---	---	---	---	81	---	29	---	---	
	入学許可予定者数 E	1,228	1,168	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	合格率 E/D(%)	29.5	28.8	---	---	---	---	49.4	---	69.0	---	---	
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	7,153	5,116	209	528	267	52	40	---	20	---	921
		確定出願者数	7,933	*4,815	261	531	292	58	**	---	16	---	872
		受検者数 F	7,914	*4,802	261	529	292	58	**	---	16	---	869
		入学許可予定者数 G	6,878	4,989	209	497	264	52	40	---	17	---	810
		合格率 G/F(%)	86.9	***	80.1	94.0	90.4	89.7	***	---	100	---	93.2
	二次選抜	二次選抜定員 A-(C+E)-G	275	127	---	31	3	---	---	---	3	---	111
		出願者数	158	106	---	5	2	---	---	---	1	---	44
		受検者数 H	152	102	---	5	2	---	---	---	1	---	42
		入学許可予定者数 I	123	78	---	5	2	---	---	---	1	---	37
		合格率 I/H(%)	80.9	76.5	---	100	100	---	---	---	100	---	88.1
総計	入学許可予定者	10,408	7,071	400	814	519	80	80	40	38	40	1,326	
	実入学者数 J	10,402	7,070	400	812	519	80	80	40	38	40	1,323	
	過不足 J-A	-158	-50	0	-28	-1	0	0	0	-2	0	-77	
	定員充足率(%)	98.5	99.3	100	96.7	99.8	100	100	100	95.0	100	94.5	
前年度定員充足率(%)		99.6	99.7	100	99.8	100	100	100	100	97.5	100	98.6	

\* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

\*\* 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

\*\*\* 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一般選抜	学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	420	40	224	0	140	0
		確定出願者数	600		341		147	
		受検者数 D	599		341		147	
		入学許可予定者数 E	420	40	224	0	140	0

### 3 一般選抜における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数7,992人に対し、出願変更者数は560人(昨年度536人)、出願変更率は7.0%(昨年度6.7%)となり、確定出願者数は7,933人であった。

各学科別の出願変更率は、工業学科の10.6%が最も高く(昨年度の最高は農業学科が13.4%)、次に、農業学科の9.9%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項目		学力検査 定員	出願者 数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出願 者数 C	出願 変更 者数	出願 変更 率(%)
* 普通		4,332	4,804	290	6.0	4,815	300	6.2
農業		209	274	27	9.9	261	39	13.4
工業		528	508	54	10.6	531	50	9.6
商業		267	290	23	7.9	292	19	6.8
家庭		52	57	1	1.8	58	6	8.0
音楽		20	17	1	5.9	16	0	0.0
総合		921	879	58	6.6	872	35	3.9
学校 出 願	普通・理数	460	636	50	7.9	600	48	8.5
	普通・体育	224	386	52	13.5	341	26	8.1
	普通・美術	140	141	3	2.1	147	13	8.6
合計		7,153	7,992	560	7.0	7,933	536	6.7

\*普通科は学校出願を除く

### 4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全日制の課程では、愛知高等学校、湖南農業高等学校、甲南高等学校、八日市南高等学校の4校8科であった。定時制の課程では、昨年度と同様で、大津清陵高等学校の昼間、夜間が実施した。

実技検査を実施した学校は、石山高等学校(音楽科)の1校1科であった。

なお、作文については実施校はなかった。



## II 単位制 転・編入学、通信制の課程

### 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し25人（昨年16人）が入学許可予定者となり、0.63倍（昨年度0.40倍）の倍率となった。二次選抜では、1人が入学許可予定者となり、合計26人（昨年度18人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、128人の出願者（昨年度120人）に対して、128人（昨年度120人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、27人（昨年度29人）が入学許可予定者となり、合計155人（昨年度149人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計		
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A	
平成 29 年度	単位制	転 編 入	40	27	25	0.63	0	1	1	26	-14
		通 信 制	320	128	128	0.40	0	27	27	155	-165
平成 28 年度	単位制	転 編 入	40	17	16	0.40	0	2	2	18	-22
		通 信 制	320	120	120	0.38	0	29	29	149	-171



### Ⅲ 一般選抜学力検査

#### 1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や記述式の解答を多くするなどの工夫を凝らした。

受検生がじっくり考えることができるように各検査時間は50分で、問題用紙はA4サイズ8ページ建て（A3二枚重ね・両面刷り・二つ折り）に、解答用紙をA3サイズ・横置き・片面刷り・二つ折り（内刷り）で実施した。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して多面的、多角的に考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えや気持ちを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

#### 2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

#### 3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語52.3点、数学51.0点、社会54.5点、理科38.3点、英語43.7点であった。

## 平成29年度 国 語

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「本文とは別の資料を示すことで、総合的に文章を読み取る力や、論理的思考力を問う問題となっていた。」、「読み取ったことや自分の意見を適切に表現し、内容を正確に理解する基礎的な力や活用する力をみる問題として良問であった。」、「説明的・論理的な文章を読ませ、内容を正確に読み取れているか、読み取ったことを活用し、自分の意見を適切に表現する力をみる問題であった。」、「全体的には資料を組み合わせる読み取る力や論理的に思考し、想像する力をみる良問である。」、「文章を読解するだけでなく、自分の意見や考えを明確にしていくことに主眼が置かれた良問である。」、「小説等の文学作品を素材として、内容を読み解く問題が、もっとあってもいいのではないか。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

全体として、身に付けておくべき基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題や、二つの文章を読み、適切な情報を得る問題は正答率が高かった。

文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする問題、文章を読んで自分の意見を持ち、根拠を明確にして表現する問題については正答率が低かった。様々な本や文章を比べたりしながら、主体的に読みを深め、自分の意見をまとめ、表現する力を身に付けることが求められる。生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくむという観点から、身に付けた基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、自分の考えや意見をまとめ、交流をし、さらに自分の考えを深化させるなどの言語活動の充実が望まれる。

□は、タンポポについて書かれた文章と、関連する二つの資料を素材とし、複数の文章を比較しながら読み、表現の仕方や要旨をとらえる力や、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、適切な情報を得てまとめる力を問う問題であった。文章を読み比べて要旨をとらえる問題については正答率が高かったが、いくつかの文章から必要な情報を読み取り、適切にまとめる問題については正答率が低かった。複数の文章から適切な情報を得て、まとめる力の育成が求められる。

□は、優れたコミュニケーションについて考察した文章を素材とし、自ら課題を設定し、グループでの交流をとおして課題を解決していく学習の場面を想定し、文章の要旨や論理の展開の仕方を的確にとらえ、目的や必要に応じて適切に要約する力、根拠を明確にして適切に自分の考えを表現する力をみる問題であった。目的や必要に応じて、適切に要約する力については、正答率が低かった。文章の構成を考えながら、文脈における語句の意味を正確に理解し、自分の考えをまとめる力の育成が求められる。

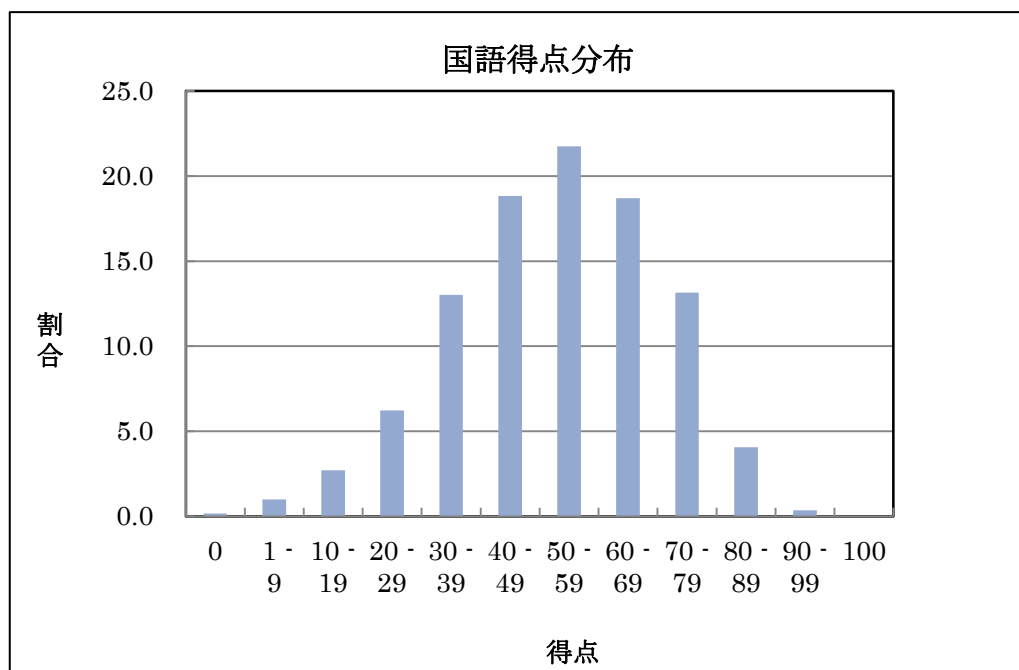
□は、漢字の問題については正答率が高く、基礎的・基本的事項については身に付いている。文の成分の関係を理解しとらえる力をみる問題、文語のきまりや表現の技法を適切にとらえる問題については、正答率は低く、文の成分の関係や文語のきまりについて理解を深める学習活動が求められる。

## 国 語

問題区分		正答率 (%)	
㊦	1	I	81.2
		II	81.3
	2	26.7	
	3	39.8	
	4	19.1	
	5	12.8	
㊧	1	48.0	
	2	25.9	
	3	67.2	
	4	8.3	
	5	13.7	

問題区分		正答率 (%)	
㊨	1	①	58.2
		②	71.5
		③	76.9
		④	71.3
		⑤	70.1
	2	①	77.1
		②	85.5
		③	92.3
		④	85.6
		⑤	80.3
	3		58.0
	4	①	45.9
		②	43.1

年 度	平均点	標準偏差
平 29(100点満点)	52.3	17.6



# 平成29年度 数 学

## 1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基本的な計算力から、思考力・表現力を必要とする問題まで幅広く出題されている。」「日常の現象に関連した素材で考察する問題で、良問であった。」「中学校で学習した内容全般にわたる出題であり、3年間の学習到達度を見ることが出来る。」などの意見があった。

各設問については、「正負の計算にも、身近な事柄を取り入れており、生活の中での数学の力を問うことができています。」「**2**は、運動強度と運動心拍数の関係について、常識的に理解している内容を数学と結び付けた良問である。」「**3**は、複数の分野を融合しており、思考力が必要な良問であるが、小問により難易度が大きく異ならないようにした方がよい。」「**4**は、シンプルな設定であるが、高度な数学的思考力を問うており、問題としておもしろい。無答率が低く、しっかり取り組んでいた。中学校課題研究としても相応しい。」などの意見があった。

## 3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できているといえる。正答率が低い「図形の性質に関連づけて考察し、確率を求める問題」や「三角形の相似に着目し、二つの図形の面積が等しくなる理由を説明する問題」については、図形の性質について、見通しを持って考察し、処理する力や説明する力が十分身につけておらず、今後は、課題を解決する学習において論理的に考察したり、数学的な表現を用いて理由を説明したりする活動を取り入れながら、習得した知識を活用し、思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

**1**は、数と式の計算、確率の問題について、正答率が比較的高く、よく理解できていた。与えられた条件から、塔の高さを求める問題では、正答率が低かった。問題文から与えられた条件を正確に読み取って数量の関係や法則を考察し、数学的に表現し処理する力の育成が望まれる。

**2**は、運動強度を調べる場面で、心拍数と運動強度について、関数関係を見だし、数学的に処理する力や考察し表現する力をみる内容であった。与えられた条件から、運動強度や心拍数がどうなるかを問う問題では、正答率が高かった。与えられた情報を正確に読み取って、数学的に処理する力が付いていることがうかがえる。数学的に考察し表現する問題では正答率が低く、数学的な表現を用いて説明する力の育成が望まれる。

**3**は、さいころの出た目をもとにとる点の位置関係について、与えられた条件をもとに、数学的に処理する力をみる内容であった。与えられた条件から、図形の性質に関連づけて考察し、確率を求める問題では、正答率が低かった。問題文から与えられた条件を正確に読み取って、図形の性質と関連づけて考察し、判断、処理する力の育成が望まれる。

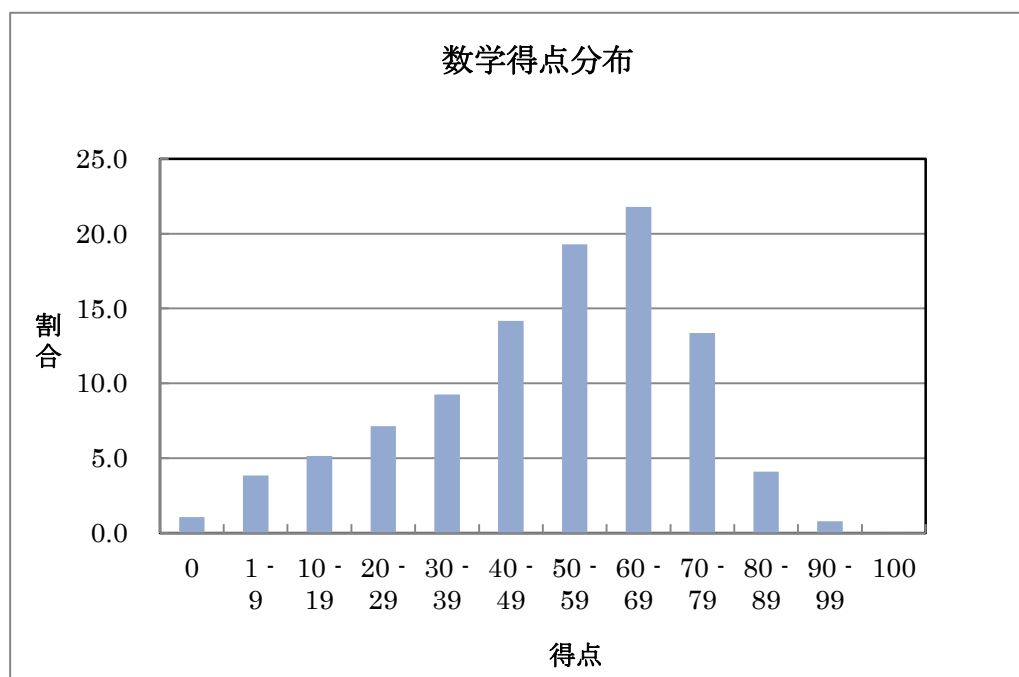
**4**は、周の長さが一定の長方形の面積が最大になるときの辺の長さを調べる場面で、与えられた条件をもとに、見通しを持って数理的に考察し表現する力や、数学的に表現し処理する力をみる内容であった。与えられた情報を正確に読み取って、三角形の相似に着目し、二つの図形の面積が等しくなる理由について説明する問題の正答率が低かった。図形をよく観察して、見通しをもって考察し表現する力の育成が望まれる。

## 数 学

問 題 区 分		正 答 率 (%)	
①	(1)	67.0	
	(2)	72.7	
	(3)	75.5	
	(4)	76.1	
	(5)	66.3	
	(6)	77.1	
	(7)	54.3	
	(8)	45.9	
	(9)	32.3	
②	(1)	77.8	
	(2)	70.0	
	(3)	記号	22.5
		記述	18.0

問 題 区 分		正 答 率 (%)
③	(1)	54.8
	(2)	7.7
	(3)	3.5
④	(1)	77.1
	(2)	41.4
	(3)	6.7
	(4)	1.3

年 度	平均点	標準偏差
平 29 (100点満点)	51.0	20.9



# 平成29年度 社 会

## 1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

## 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「地理、歴史、公民の各分野について、基礎的・基本的な知識や概念の定着度を試す問題で、地形図やグラフ、統計資料などから必要な内容を引き出し、多面的な考察の中から導き出した結論を文章として表現する力が求められる問題であった。」「正答を導き出すために、複数の資料を的確に参照する能力が求められている。近年の社会の変化を反映した問題も多く、取り組みやすかったのではないか」などの意見があった。

設問については、「解答するのに十分な分量であった」「問を多角的にとらえ、理解力、表現力を問う問題を多くしていく傾向は必要である」「記述問題では適切な語数制限や条件を設けるべきではないか」などの意見があった。

## 3 解答の分析

全体として、地理、歴史、公民の三分野における基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得はおおむねできている。正答率が低い問題に共通するのは、資料から適切な情報を取り出して、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみるものであり、これらの力が十分に身につけていないと考えられる。問題文や資料の用語をつなぎ合わせて文章にするのではなく、図表やグラフから必要な情報を正確に読み取り、蓄積した知識から判断し、表現する力の育成が必要である。今後、資料から分かることを発表したり、意見を交流したりすることなどを通して、考えを深めさせる活動をさらに充実させ、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力を育成する指導が望まれる。

①は、資料やグラフ、地図などをもとに、鹿児島県の自然環境の様子についての理解や、地形図を読み取る力をみるとともに、鹿児島県の農業の特色について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。基本的な資料を読み取る力をみる問題の正答率は高く、資料の活用能力が高まっていることがわかる。しかし、地形図を読み取る問題の正答率が低く、地形図の基本となる知識を身に付け、地図から適切な情報を取り出して、文章にまとめる力を育成する必要がある。

②は、図表や絵などの資料をもとに、幕末から明治時代の社会の変化についての理解をみるとともに、当時の産業の様子について、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。複数の資料から得た情報を、示された表に合う形で、適切な文章で答える問題で正答率が低かった。知識の習得とともに考察力、表現力を総合的に育てていく必要がある。

③は、身近な事例を取上げ、写真やグラフなどをもとに、情報化による商品購入の仕方の変化についての理解をみるとともに、情報化による生活や社会への影響について、考察し公正に判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心を持ち、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を育てていく必要がある。

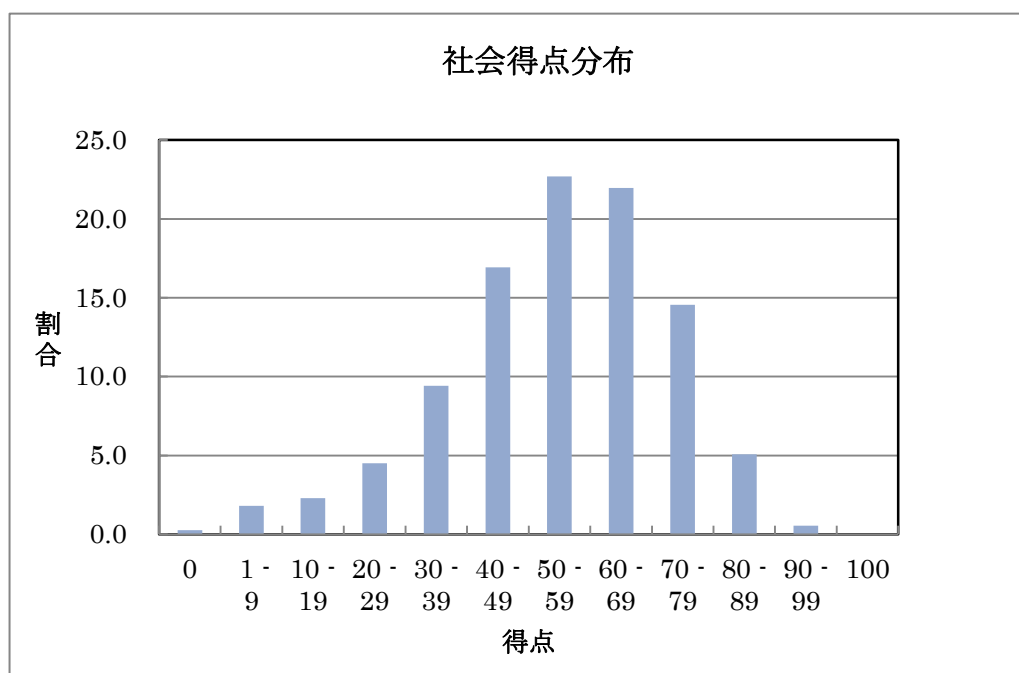


## 社 会

問題区分		正 答 率 (%)	
①	1	43.1	
	2	71.2	
	3	(1)	13.6
		(2)	7.8
	4	72.3	
	5	ア	73.6
		イ	52.9
6	22.2		
②	1	(1)	45.7
		(2)	14.8
	2	19.6	
	3	(1)	例1 67.2
		(2)	例2 59.6

問題区分			正 答 率 (%)	
3	(2)	選択肢ア	18.4	
		選択肢イ	55.2	
② 4	(1)		15.4	
	(2)		57.6	
5			4.5	
③	1		67.2	
	2		32.1	
	3	(1)		69.3
		(2)		34.9
	4		57.7	

年 度	平均点	標準偏差
平 29 (100点満点)	54.5	17.8



## 平成29年度 理 科

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「実験や観察を重視しながら、知識や理解を問うだけではなく、深く考察させる問題であった。」「基本的な知識を活用して考察する力や、考えを記述する力が求められる工夫された問題であった。」「科学的な思考力を問うことができる問題であった。」などの意見があった。

設問については、「知識・理解を問う問題の量がもう少し多くてもよかった。」「記述問題が多く、考察した内容や現象について論理的に記述する力が求められた。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

物理、化学、生物、地学の各分野の基本的な事項を問う問題については正答率が高く、知識・理解の定着が進んだと考えられる。一方、実験や観察によって調べた事物・現象について、科学的な見方や考え方に基づいて深く考察する問題で正答率が低かった。また、生徒の話し合いや主体的な学習活動の場面を題材に取り入れ、その中で思考の過程を示しながら考察させる問題についても正答率が低かった。身のまわりの事物・現象に興味をもち、疑問や目的意識をもって実験や観察を行うことが大切である。また、基本的な事項や概念の理解を深め、なぜそのような現象が起こるのかを科学的に探究する態度を育成する必要がある。現象の要点や自分の考察を簡潔に表現できるよう、言語活動についてもより一層充実を図る必要がある。

①では、金星などの惑星の特徴や見え方についての知識・理解を問う問題や、惑星の位置関係を考察する問題について、比較的正答率が低かった。また、惑星が観測される様子から、太陽系の惑星の軌道についてどのようなことがわかるかを考察し、記述する問題について、正答率が低かった。

惑星についての基本的な事項の知識・理解を定着させるとともに、惑星の見え方などを太陽系の構造と関連付けてとらえ、考察する力を育成することが望まれる。

②では、仕事の大きさを求める問題や、運動の記録から速さについて考える問題については、正答率が高かった。一方、力と運動の規則性に基づき物体に働く力について考察する問題の正答率が低かった。また、実験で観測された物体の運動の様子について、仕事と力学的エネルギーを関連付けて考察し、そのような運動になる理由を説明する問題の正答率が低かった。

運動の規則性や仕事、エネルギー等について理解を深め、これらの概念から物体の運動を科学的に考察する力を育成することが望まれる。

③では、電解質の電離や水溶液の濃度についての知識・理解を問う問題では正答率が高かった。一方、電池の一極についての理解を問う問題や、木炭電池においてアルミニウムがイオンになる量と電流の関係についての仮説を検証する実験を計画する問題の正答率が低かった。

方法や手順が示された実験に取り組むだけではなく、仮説を立て、それを検証するにはどのような実験をしなければならぬのかを構想する力を育成することが望まれる。

④では、種子植物や、だ液に含まれる消化酵素についての知識・理解を問う問題では正答率が高かった。また、種子の発芽について、必要な条件や光合成との関係について問う問題についても正答率が高かった。一方、3つの実験の結果から、種子が発芽するためのエネルギーについて考察する問題については正答率が低かった。

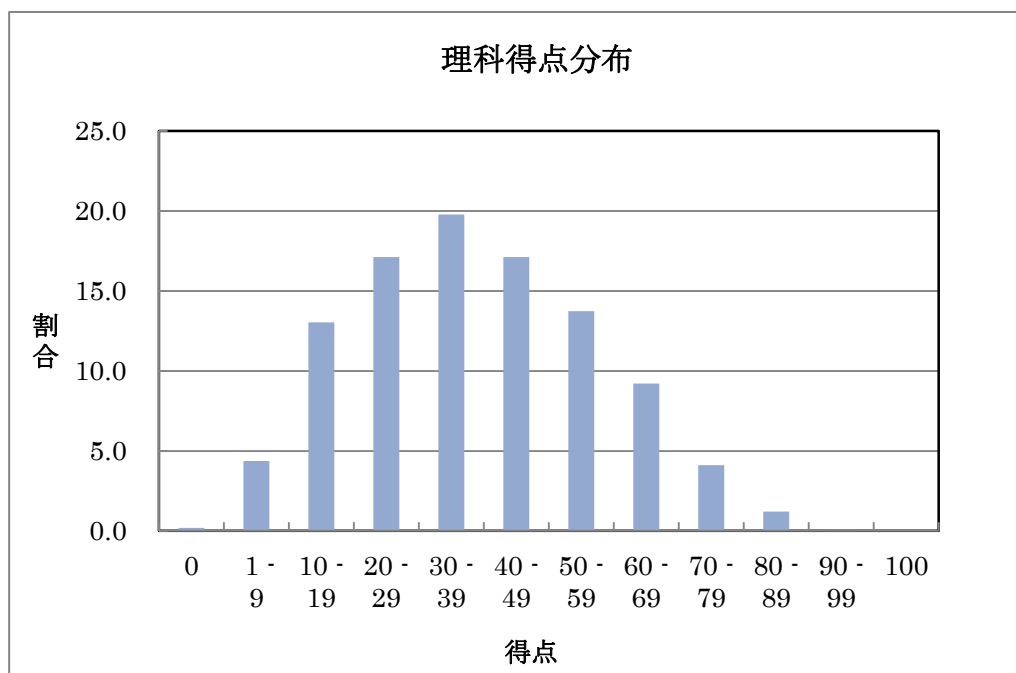
複数の実験の結果を総合的に考察し、正しい結論を導き出す力の育成が望まれる。

## 理 科

問題区分		正答率 (%)
①	1	49.5
	2	36.4
	3	40.3
	4	38.4
	5	7.5
②	1	73.2
	2	53.3
	3	5.1
	4	7.8
	5	4.2

問題区分		正答率 (%)	
③	1	69.1	
	2	塩化 ナトリウム	61.3
		水	58.7
	3	8.1	
	4	19.2	
④	1	選択肢ア	79.2
		選択肢エ	80.8
	2	選択肢イ	58.7
		選択肢ウ	63.6
	3	61.0	
	4	51.3	
	5	5.5	

年 度	平均点	標準偏差
平29 (100点満点)	38.3	18.7



## 平成29年度 英語

### 1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に定められた内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えや気持ちを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

### 2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「中学生にとって身近な素材で、これまでの経験と知識を活かしながらどのように表現するかを問うように工夫されている。」「自分の考えを相手に伝えることに重点が置かれた良問であった。」「国際交流に対する興味や関心を意識させる良問であった。」などの意見があった。

設問については、「中学校で身に付けておくべき英語表現をバランスよく扱っており、基礎・基本の定着にしっかり取り組んだかどうかを測ることができる。」「より『生きた英語』を使うように工夫されている。」「グローバル社会で求められているスキルや異文化交流がテーマとして取り上げられており評価できる。」「情報量がたいへん多く、中学生にとってはじっくり考えて答えることができず負担ではないか」などの意見があった。

リスニングについては、「生徒になじみのある内容であった。」「難易度にも幅があり、バラエティに富んだ良い構成であった。」「分量、内容ともにバランスが取れていた。」などの意見があった。

### 3 解答の分析

全体として、実際の言語の使用場面を想定した会話を聞いて、話し手の意向を理解する力や、身近な話題についての英文を読んで中心となる事柄や必要な情報をつかむ力、基本的な語彙を用いて簡単な内容を表現する力はある程度身に付いている。正答率が低いのは、場面や状況に応じて考えや気持ちを適切に表現する問題であった。相手に自分の考えや気持ちが伝わるように、語と語のつながりなどに注意して正しく書く力が十分に身に付いていないと考えられる。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙や文構造の理解についてより一層の定着を図るとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。日ごろから、読んだり聞いたりした英文の内容を理解することに加え、英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動をより一層充実させることが望まれる。

①の聞き取り問題では、絵を見て答えを選ぶ問題や、初歩的な短い会話の内容を聞き取る問題、身近な話題の会話を聞いて情報や話し手の意向を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまりのある英文を聞いて、状況や場面を想像しながら、聞き取った内容を英語で適切に表現する問題では正答率が低かった。日ごろから、まとまりのある英語を聞き、相手が伝えようとする内容を聞き取り、その内容についてペアで話し合ったりするような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、中学生の「職場体験」に関する発表を素材にして、発表者の伝えたいことを正確に読み取る力や、発表の内容に対して自分の考えや気持ちを適切に表現する力などをみる問題であった。話し手の大まかな意向を理解する問題や、会話の流れに即して基本的な語彙を用いて適切に表現する力をみる問題は、比較的高い正答率であったが、自分の考えや気持ちを適切に表現する問題では正答率は低かった。日ごろから、読んだり聞いたりした内容に対して、自分の感想や意見などを適切に表現して伝え合う活動をより計画的、系統的に行うことが望まれる。

③は、アメリカの高校のホームページを見ている高校生と、留学生の会話を素材にして、会話の大まかな流れや要点を読み取る力、自分の考えや身の回りの情報を伝える力などをみる問題であった。会話の流れに即して基本的な語彙を用いて適切に表現する力をみる問題や、会話の流れを把握しているかをみる問題では正答率が高かったが、場面や状況に応じて英語で適切に表現する力をみる問題では正答率が低かった。まとまりのある英文を読んだり聞いたりして、内容についての感想や意見を述べたり、賛否やその理由を示したりする活動を一層充実させることが望まれる。

## 英 語

問題区分		正答率 (%)	
①	その 1	1	86.5
		2	53.5
	その 2	1	55.2
		2	71.2
	その 3	1	82.6
		2	62.7
		3	76.1
	その 4	1	25.4
		2	11.6
	②	1	
2		53.9	
3		49.6	
4		(1)	31.7
		(2)	17.3
		(3)	79.3
5		10.9	
6		3.3	

問題区分		正答率 (%)	
③	1	(1)	55.0
		(2)	12.5
		(3)	12.5
	2		16.1
	3		41.4
	4		35.3
	5		10.1
6		43.4	
7		16.4	

年 度	平均点	標準偏差
平 29 (100 点満点)	43.7	23.4

